

[様式14]

(対象事業：①子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：子どもに知ってもらおう  
竹久夢二と地元美術館

事業者名：財団法人竹久夢二伊香保記念館

連携事業館名：渋川市立伊香保小学校

住所：群馬県渋川市伊香保町伊香保544-119

TEL：0279-72-4788

FAX：0279-72-2661

HPアドレス：<http://www.yumeji.or.jp>



建物外観

#### ①施設概要

晩年、伊香保・榛名を愛した竹久夢二に関する調査・研究につとめその作品を紹介するとともに、夢二の念願であった地域の生活に根ざした芸術の保護・育成をはかり文化の向上に貢献する事を目的として昭和56年に開館。16000点に及ぶ夢二作品のほか、和硝子やオールドノリタケ、そば猪口など貴重な作品を所蔵。館内は「本物」にこだわり、アンティークの調度品や照明器具、建物や庭園など作品を取り巻く展示空間にも心を配り、総合芸術的な意味での「本物の美術館」を目指している。

#### ②事業の意図目的

地元の小中学生を対象とし、生徒の身近にある夢二記念館を舞台として、作品だけでなく、庭園や建築、展示方法や解説を含めた総合芸術的な意味での「本物の美術館」で美術鑑賞の楽しさや「美術館の役割」、どうしてこの地に「夢二記念館」ができたのかなどを学ぶ。

実際に地元の伊香保小学校5・6年生を記念館に招き、講師による体験・鑑賞学習を行なう。これにより自分達の地域にある美術館と当地に縁のある「竹久夢二」を学び地域の文化への誇りと関心を高めることを目的とする。

#### ③事業概要

- 1、近隣の渋川市立伊香保小学校の5・6年生を対象とし、美術館を校外学習の場として、美術品・アンティークオルゴール・建物・造園・展示方法など、直接本物に触れながら、その意義や価値をそれぞれの専門家（建築家・造園技師・学芸員など）から学ぶ。
- 2、テキストとして漫画で竹久夢二と美術館の役割についてまとめた「夢はきっとかなう～竹久夢二伊香保記念館物語～」を作成。  
市の中学生全員、及び教員を対象とし、こちらから出向いてこの漫画をもとに竹久夢二と地元美術館を知ってもらうための説明を行ない、直接漫画を配布する。  
その場合、必ず1クラス或は美術クラブなどの生徒を対象に説明を行なう。  
漫画はそのまま入館券としても対応。（1冊につき小中学生1名無料対応）

#### ④事業の製作物及び報告書等

冊子（漫画「夢はきっとかなう～竹久夢二伊香保記念館物語～」）

#### ⑤参加者状況

- 1、記念館にて講義と見学 → 参加者延べ人数141人  
【小学生59名・中学生65人・大人（教師など）17人】
- 2、マンガ配布 → 延べ冊数 2909冊  
【小中学生・教師用2785冊 県立図書館などへの寄贈分124冊】
- 3、マンガ配布説明会参加者 → 延べ人数 約800名対象  
【小・中学生、教師など】



### (1) 事業の実施状況について

①平成 19 年 11 月 20 日（火） 渋川市立伊香保小学校 6 年生 30 名と教師 3 名対象

平成 19 年 11 月 27 日（火）                      //                      5 年生 29 名と教師 3 名対象

- ・地元の伊香保小学校の 5・6 年生を対象に、記念館を校外学習の場として提供
- ・当日は少人数グループに分けて、夢二作品・アンティークオルゴール・建物・造園・展示方法など、その意義や鑑賞の仕方・価値について、それぞれの専門家（建築家・造園技師・学芸員など）から学んだ。

\*生徒達は、夢二のことや記念館の存在を身近に感じ、オルゴールの音色の違いや、建物に込められた建築家の思い、庭の石の形に至るまで「初めて知った」「楽しかった」と、とても反応が良く感激した様子だった。

\*先生方にも好評で「説明されて初めて気付くこと」の大切さを再認識して下さり、美術館そのものを学習の場と捉え、美術鑑賞の楽しさや美術館の意義を伝える今回の事業内容を十分にご理解頂けた様子であった。

その結果として伊香保小学校より、来年度以降も新 5 年生を対象に毎年校外学習の場としての対応・受け入れの要請あり。

◎契約までに間に合わず対象外となるが、以下の日程でも講義を実施した。

・平成 19 年 6 月 19 日（火）、7 月 3 日（火） 伊香保小 6 年生 30 名と教師 3 名対象

・平成 19 年 6 月 26 日（火）、7 月 10 日（火） 伊香保小 5 年生 29 名と教師 3 名対象

②伊香保小学校 5・6 年生の講義用テキストとして、また市内全中学生への啓蒙の一環として、漫画「夢はきっとかなう～竹久夢二伊香保記念館物語～」を 3000 部作成。

- ・小中学生向けに「漫画」という形で夢二や記念館を紹介する試みは想像以上に難しく、予定よりも遅れて平成 20 年 1 月半ばの完成となった。

- ・学校側には「単に配布するだけでなく、極力説明をさせて頂きたい」との申し入れを行なったが、年度末のため日程調整が難しく、当初は受け入れが難航。

しかしそんな中、この事業にご理解を頂いた、地元伊香保中学校の校長先生の紹介により「校長会協議会（渋川市内の全中学の校長先生が集まる会議）」での説明の時間をとって頂き、当館の館長と学芸員が説明に上がることができた。

- ・校長先生方の反応は好評で、その後はスムーズに積極的な受け入れが可能となった。
- ・結果として、市内全 10 校の中学校にそれぞれ時間をとって頂くことができ、漫画の意図や読んで欲しい思いを伝えて、生徒に手渡しする機会を得た。

### \*漫画配布後の反応

#### A、渋川市立赤城南中学校

→美術の先生が、この漫画を教材に竹久夢二についてのスライド授業実施

その授業を受け興味を持った、生徒が後日保護者と来館

また、来年度については、新 1 年生の「校外学習見学会」の申し込みあり。

#### B、渋川市立伊香保中学校 1・2 年生 65 名は、漫画配布後の平成 20 年 3 月 6 日（木）

見学の申し込みがあり、受け入れを行なった。

生徒達は漫画を読んだ上で来館。見学時間が限られていたので、見学コースを 3 箇

所に分け、各自もっとも興味のあるコースを選択してもらい、館長・学芸員の案内のもと館内の見学・ギャラリートークを実施した。

→この日は時間の都合で3つのコースから、1つしか選べなかったのが「どうしても他のところも見たい」と、その後に改めて来館してくれた生徒あり。

【漫画持参無料対応。学芸員在館のためギャラリートークを行ない館内案内】

\*小中学生の来館はその後も続いており、好評。

この無料対応には期限がないので今後も継続して受け入れを行なう。

## (2) 地域との連携について

### \*伊香保小学校との連携

講義について、感想文や記録写真をまとめて下さり、伊香保小だよりも掲載お礼の会を兼ねて「漫画の贈呈式」開催、式の中では感謝の言葉を頂いた。

両者が「歩いて行ける距離にある地元美術館」としての認識を新たにし、子供達の校外学習の場として、今後も連携し、新たな関係性を築いていくことを再確認できた。

### \*地元地域のホテル・旅館との連携

漫画の完成と同時期に、夢二記念館にて旅館・ホテルの従業員向けの勉強会あり。

その場でこの事業を紹介すると共に予備の漫画から15冊を贈呈。

子供向けに描かれた漫画のため、分かりやすく勉強になると好評。

温泉街にある美術館のため、ホテル・旅館に対しても開かれた美術館であるよう、今後も心がけ、情報を発信していきたい。

### \*講師との連携

この事業の特徴の1つである「講師」、設計の先生や造園技師の親方にとっても楽しい試みであったようだ。子供たちがとても熱心で、話しも良く聞き、ものも良く見て反応することにとっても驚き、ぜひまた授業を行ないたいとのこと。

子供達は、記念館の見所を学びながら、おそらくそれまであまり接点がなかった分野のプロフェッショナルな方々と交流を持ち、未来ある子供達の職業観にも何らかの影響を与えることができたのではないかと思う。

## (3) 成果物について

### ★漫画「夢はきっとかなう～竹久夢二伊香保記念館物語～」

- ・子供にも親しみやすいようマンガで「竹久夢二」と「美術館の役割」について紹介。
- ・B6判 108ページ 3000部作成 →内容は小学校高学年から中学生向け
- ・マンガを持参すれば、中学生以下1冊につき、1名入館無料にて対応

#### 【あらすじ】

とある中学校の美術部に所属する2年生「竹平夢二君」が、文化祭で配るパンフレットの表紙作成を依頼されたことから物語が始まる。文化祭実行委員の「山川志乃さん」と一緒に、自分の名前と一字違いの画家「竹久夢二」の事を調べ、夢二の幅広いジャンルの作品を知る。もっと詳しく夢二の事を知りたくなった2人は「竹久夢二伊香保記念館」を訪れ「大正ロマン夢二の世界」に触れる。

記念館での描写は、実際の風景をもととし、2人を迎える「館長」や「庭師」「建築家」



は実在の人物。それぞれが子供達に伝えたい「こだわり」や「美術館の役割」を述べる。フィクションとノンフィクションがまじり合い、この本を読んで記念館を訪れると「夢二」や「美術館」を身近に感じ体験することができる。

#### （４）参加者の反応

##### ①伊香保小学校５・６年生（詳細は前述の１・２参照）

###### 【伊香保小学校・岩崎校長先生よりお礼状 抜粋】

今年度６回にわたる芸術拠点事業に参加させて頂きました。その中で、絵画や陶器、建物や庭園などの日本文化に直接触れ、様々な体験をすることができました。このことは本校の経営方針であります「本物と出会う授業の充実」にまさしく合致するものであり、大変意義深いものであったと感じております。

###### 【感想文・６年男子 抜粋】

一つ一つの物に工夫がしてあってすごいなと思いました。今までは日本の文化を知っているつもりだったけど竹久夢二伊香保記念館に行ってから、自分が本当の日本の文化を知らなかった事に気づけたり、日本の文化の良さ深さを知れて良かったです。

###### 【感想文・６年女子 抜粋】

「絵には物語がある」この言葉が心に残っています。今まではただの絵だなと一枚の絵を見て思っていました。でもこの言葉を聞いてからは物を見る目が変わりました。また庭の水の一滴が落ちる音を聞く、これも集中して耳を澄ませました。滝の音だけ聞こえていたのに、色々な小さな音が聞こえた時、とても嬉しかったです。

###### 【感想文・６年女子 抜粋】

いつも足を使い歩いている庭で、何かを感じ取ることはなかったのに夢二記念館に行くことで日本庭園には、一つ一つに職人さんの気持ちが込められていて、何もかもが大切だと思いました。絵の説明やコップが作られた時代など詳しく丁寧に教えて下さり、一生体験のできないことをできて、これからの未来に役立つことと思います。

##### ②伊香保中学校１・２年生（詳細は前述の１参照）

年間スケジュールの中では、課外授業の予定を組み込むことができなかったが、漫画配布後「ぜひ訪問したい」との申し込みがあり、受け入れを行なった。

##### ③赤城南中学校（詳細は前述の１参照）

漫画配布後、美術の先生より連絡あり。まず先生自らが見学に来て下さり、その後、スライド授業などを実施し、こちらの意図を生徒にダイレクトに伝えて下さった。

学校にご挨拶に伺った際には、漫画を読んだ生徒の感想文を頂いた。

来年度については、１年生を対象にこの漫画をテキストとした課外授業の申し込みあり。

###### 【感想文・赤城南中学校女子生徒 抜粋】

伊香保町に記念館があるそうですが、私はまだその記念館に行ったことがありません。この本を読んでその記念館に行ってみたいと思いました。飾ってある絵や調度品、そしてその建物から見える景色をこの目で見たいと強く感じました。竹久夢二さんは、明治・大正・昭和という時代を生きその中で様々なジャンルにこだわることなく書きたいものを自由に表した素晴らしい画家だとしりました。私はこの素晴らしい画家が愛した伊香保や榛名山が身近にあることをうれしく思います。この素晴らしい土地に住んでいる



私達は幸せだと思いました。

#### ④漫画を読んだ子供達の来館

土日になると漫画をもった子供達が来館。地元伊香保の子供達は友達同士で、遠方の子供は保護者と共に来館。漫画配布後、1番最初に来館してくれたのは赤城南中学で美術の先生から授業を受けた男子生徒（お母様と一緒に来館）。

「漫画を読みどうしても記念館に来てみたくなった。記念館見学後は、漫画の主人公と同じように夢二が好きだった榛名まで行く予定」とのこと。お母様も大変驚かれた様子で「いつもは、そんなにわがまま言わないのにどうしても連れて行ってくれときかないのです。漫画を読んで何かが心に響いたようです」とのこと。

【漫画持参のため生徒は無料。館長・学芸員在館のためギャラリートークを行なう。

漫画の意図が中学生の心に届いたことに館長も感激】

#### ⑤新聞記事掲載

- ・記事を見た一般の方からの反響も大きく、非売品にも関わらず「ほしい・子供に読ませたい」との問い合わせあり。（数に限りがあり、基本的にお断りとする）
- ・群馬県立図書館より寄贈依頼の問い合わせあり。→ 予備分より2冊寄贈
- ・渋川市議会から問い合わせあり。→ 予備分より議員全員分30冊寄贈
- ・(教)全国高校総合文化祭群馬大会推進室調整グループより問い合わせあり  
高校生の勉強用テキストとして活用したい。→ 予備分より55冊寄贈

#### （5）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

未来ある子供達の健やかな成長過程において、本物の「美術や芸術文化」に触れる機会を持つことはとても大切な意義ある事である。子供の頃に体験した美術との触れ合いは、きっとそれぞれの生徒の心の中で芽吹き、やがて花開き、その子の人生においてかけがえない貴重な財産となると思う。今回の事業は、そんな体験を1人でも多くの子供達に提供し、未来の文化人を育む1つのきっかけになったと考える。

今回は子供達に、伊香保榛名に縁のある画家「竹久夢二」の存在や身近にある文化施設に関心を持ってもらうため、生徒達を直接記念館に招いて校外学習を行なった。また同時に子供達に親しみやすいよう「漫画」という形態で、夢二の人となりや作品を紹介する試みを行なった。市内の各中学校にも出向き、積極的な働きかけを行なった結果、意識的に「見学する」ために来館してくれた地元の小中学生とその家族の姿が見られたことは、大変嬉しい大きな成果であったと言える。

さらに地元の小・中学校と、市内の赤城南中学校（記念館から少し離れているためバスを使つての来館希望）から、校外学習の場として今後も継続的な受け入れと連携をお願いしたいとの申し込みがあり、この事業の更なる発展と充実を期待させるものである。このような点から考えると、地元の子供達に夢二と地元美術館を知ってもらうという目的に対して、今までの記念館の活動とはまた違った成果が得られたと思う。

「本物の美術館」で「本物の美術」に触れた子供達は、好奇心あふれるいきいきとした表情で夢二作品や館内を見回していた。そのような生徒達の楽しそうな様子を見て、きっと未来に素敵な花が咲くであろう確かな希望を感じ取ることができた。

(6) 新聞記事等  
○新聞記事



・上毛新聞 平成19年11月24日 朝刊

同様の新聞記事	上毛新聞	平成19年9月25日	朝刊
	読売新聞	平成19年9月25日	朝刊
	毎日新聞	平成20年1月30日	朝刊
	上毛新聞	平成20年3月10日	朝刊

\*伊香保小学校との交流



庭園講義の様子



建物講義の様子



漫画本を手にする  
児童のみなさん

\*渋川市内の中学校への  
説明会



学校説明会の様子



漫画本の贈呈



## 美人画、大正ロマン 若者も理解を

# 夢二の世界 漫画に

美術館を取り巻く庭園を説明する本暮館長（8月7日）



## 伊香保の記念館 年末刊行

美人画で知られ、大正ロマンを語る上で欠かせない画家、竹久夢二の遺作などを展示する美術館「竹久夢二伊香保記念館」（渋川市伊香保町伊香保）が、夢二の業績や記念館の役割をまとめた漫画本の制作に乗り出した。「観光客だけでなく、地元の子供たちにも夢二と記念館の役割についての理解を深めてほしい」と、文化庁の補助を受けて進めている。年末に3000部が完成する予定で、同市内の全中学生に無料配布する。

# 地元中学生に配布へ

漫画制作は、地域に開かれた美術館づくりを目指して文化庁が今年度始めた「ミュージアムタウン構想」推進事業の一環。全国から51件、県内からは3件が採

択され、経費は同庁が全額補助する。

同館の入場者は観光客がほとんどで、同館には「実は、地元住民とは、これまであまり交流がなかった」

という反省もあった。そこで、「感性をばぐぐんという最中の子供たちに作品などを通して、夢二が愛した地元の良さを理解してもらおう」と、補助金申請を決めた。

漫画は、同館の監修のもと、愛知県出身の漫画家・柳葉あきらさんが手がけ、約100ページの冊子化を予定。内容は、夢二の作品紹介だけでなく、「記念館のこだわりを知ってもらいたい」と、作品の展示から建物、庭園に至る総合的な演

講義も行っている。11月の講義では、同館の設計に携わった建築士や国内有数とされる造園技師を招いて、5、6年生に話してもらう。

本暮館長は「本物の芸術に触れることは、子供にとり貴重な経験。この時期に、『本物の美』を理解できるようにになれば、一生の生活が変わってくる。その手助けになれば」と意気込んで

出方法までも解説する。完成後は、本暮館長や学芸員が本を市内全中学校に直接持参する。漫画をテキストに、対話形式で、伊香保を愛した夢二の人柄や



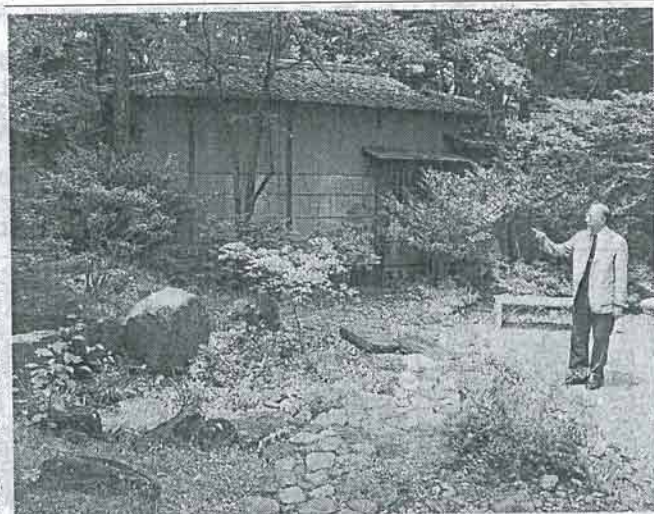
# 夢二の画業 漫画で

子供対象に  
記念館

鑑賞の楽しさPRも

渋川・伊香保

渋川市の竹久夢二伊香保は来年三月までに、伊香保美術館の役割をまとめた漫画記念館（木暮享館長）「保を愛した竹久夢二と美二画を作製し、市内の全市



伊香保小の子供たちに美術館の重要な要素として説明する同館の庭園

資料など約一万六千点を収蔵する同館が、夢二の作品に触れながらその人柄や美術鑑賞の楽しさを子供たちに理解してもらうと実施する。

計画では、本年度内に夢二の歴史と美術館の役割をまとめた漫画「竹久夢二伊香保記念館物語（仮称）」を三千部作製。市内の中学生全員に無料配布するとともに、木暮館長や同館学芸員が各中学校に出向き、漫画をテキストとした説明会を開く。

めたミュージアムタウン構想の認定、助成を受け、地域文化への貢献を狙いに「子どもに知ってもらう竹久夢二と地元美術館」事業として初めて取り組む。

岡山県出身の竹久夢二は、榛名湖畔にアトリエを構え、伊香保温泉に何度となく足を運び、第二の古里として、伊香保や榛名を愛した。美人画で有名だが、活動の幅は広く子供向けに描いた文章や絵画も残している。

この夢二関連の作品、

また、伊香保小学校の五、六年生を同館に招き、夢二などの作品について説明するほか、美術館の庭園や建物についても専門の講師が解説。子供たちに直接本物に触れ

学生に配布する。このほか、十一月には伊香保小学校の子供たちを同館に招き、美術鑑賞の楽しさを知ってもらう教室を開く。

文化庁が本年度から始



## 建築や庭園学ぶ

渋川・竹久  
夢二記念館 教室に地元児童31人

渋川市の竹久夢二伊香

を受けた。

保記念館（本暮享館長）

博物館や美術館を地域

は二十日、地元の伊香保

活性化に活用しようと、

小学校の子どもたちに同館

文化庁が本年度から始め

の建物や庭園について学

たミュージアムタウン構

んでもらう教室を開き、

想の助成を受けて実施。

参加した六年生三十一人

「子どもに知ってもらっ

が建築家や庭師から説明

竹久夢二と地元美術館」



庭師から日本庭園についての説明を  
受ける子供たち

のテーマで、子供たちに  
本物の絵や建物、庭園に  
触れてもらうのが狙い。

講師は同館の建物や日  
本庭園を手がけた建築家  
の武田悟さんと庭師の君  
塚信人さん。

子供たちは館内や庭園

を歩きながら「建物を優  
しいイメージにするため  
曲線を持たせた」「庭の  
石は大、中、小さまざま  
な大きさ、形のものをバ  
ランスよく配置すること  
で趣が出る」などの説明  
に耳を傾けていた。

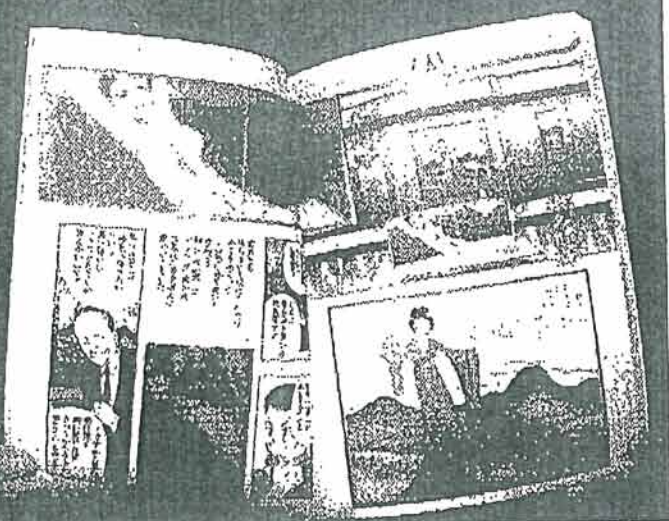


(第3種郵便物認可)

渋川市の「竹久夢二伊香保記念館」（木暮亭館長）が大正ロマンの代表画家・夢二の生涯と作品を紹介する漫画を制作した。伊香保を愛した夢二の足跡を知ってもらおうと、市内の全中学生に配布。持参すれば入館は無料とし、同館は「夢二に興味を持ってほしい」としている。

【伊澤拓也】

【伊澤拓也】



渋川「記念館」持参すれば入館無料

漫画はB6判108頁。タイトルは「夢はきつとかなう」。美術部に所属する中学生「竹平夢二」が文化祭で配るパンフレットの表紙の作成を依頼され、女子生徒と同館を訪れ、夢二の世界に触れるというストーリーだ。物語を通じて、夢二が駆け抜けた生誕と作品に込められた思いが伝えられる。「アツブセットばーいず」銀計画中だ。興味を持つ

木書館長は「『灯台下暗し』で、夢二を深く知る地元住民は意外と少ない。漫画で夢二の作品に改めてスポットライトを当て、地元に誇りを持ってもらいたかった」と話す。

漫画は同市立図書館や県立図書館にも寄贈する予定。問い合わせは同館（0279・72・4788）へ。

漫画はB6判108

の鼓動」などで知られる漫画家の柳葉あきらがさんが執筆した。

文化庁の地域の文化資源を生かした街づくりを進める「芸術拠点形成事業」の一環として行っているという。

ワカサギ  
解禁見合  
観光協会樓  
棟名観光協  
支部は29日、  
物持、ワカサ

県内14市町村長が29日、衆院第2議員会館を訪れ、県選出国会議員に道路特定財源とな

車をなければ生活できない」とあいきつ。30日には地元紙に県内全38市町村長の連名で緊急アピール広告を掲載す

これに対し、自民党  
県連会長の笹川堯・元  
国務相は「我々は決し  
て無駄な道路を造った  
覚えはない」と述べ、道  
路整備への理解を示し

# 五行易

●くわしい案内資料  
**無料急送**  
 4ハガキ・電話・FAXでノ  
 大好評の  
 通信講座  
 日本郵学センターY-A奨

ることを伝えた。

1 兇兒豈恩死  
地獄初公判

ち盛んでいる  
この日の箱  
は湖面の厚さ

を認め、即日  
検察側は「理  
さが感じられ





渋川市内の中学生らに配布されている竹久夢二の漫画

## 漫画通して夢二知って

渋川市の竹久夢二伊香保記念館（木暮享館長）が、作製を進めていた漫画「夢はきつとかなうー竹久夢二伊香保記念館物語」が完成、市内の全中学生らへの配布が始まった。

文化庁が本年度から始めたミュージアムタウン構想の助成を受けて製作。地域の子供たちに伊香保を愛した夢二の作品や人柄を知ってもらい、展示作品だけでなく建物や庭にもこだわった美術館への理解も深めてもらうのが狙い。

漫画は、中学校の美術部員の竹平夢二君と文化祭実行委員の山川志乃さんが主人公。文化祭で配るパンフレットの表紙を依頼されたところから物語が始まる。

二人は夢二のことを詳しく知りたいと同記念館を訪ね、夢二の世界に触れる。記念館の描写では、木暮館長、同記念館建設

で、三千部作製。市内の中学生二千五百人と伊香保小の五、六年生に無料配布しているほか、記念

館の学芸員が各校に出向き、漫画を作った意図や夢二、美術館の魅力を説明している。

木暮館長は「漫画を通して子供たちが郷土と縁のある夢二と美術館の役割を学び、地元文化への誇りと関心を高めてくれることを期待している」と話している。

3000部作製  
渋川の記念館

### 市内全中学生に配布